

厚生労働科学研究における アレルギー疾患政策指標案作成の進捗

国立病院機構相模原病院臨床研究センター

海老澤 元宏

アレルギー疾患対策に関する行政施策の評価に資する研究

厚生労働行政推進調査事業(免疫アレルギー疾患政策研究):令和7-8年度

目的: アレルギー疾患対策において、可視化された指標を作成する

方法: 以下の工程で評価指標案の作成を進める

① アレルギー疾患政策評価指標素案の作成

アレルギー疾患対策におけるそれぞれの分野から現状と課題点を抽出し、アレルギー疾患対策基本指針の評価に有用な政策指標案を作成する。指標案を、基本指針に合わせて分野別(「情報提供」「医療提供体制」「研究」「その他(環境整備、教育、災害等)」)、データソース別に検証を行う。

② ロジックモデルを活用した基本指針と指標案の整理

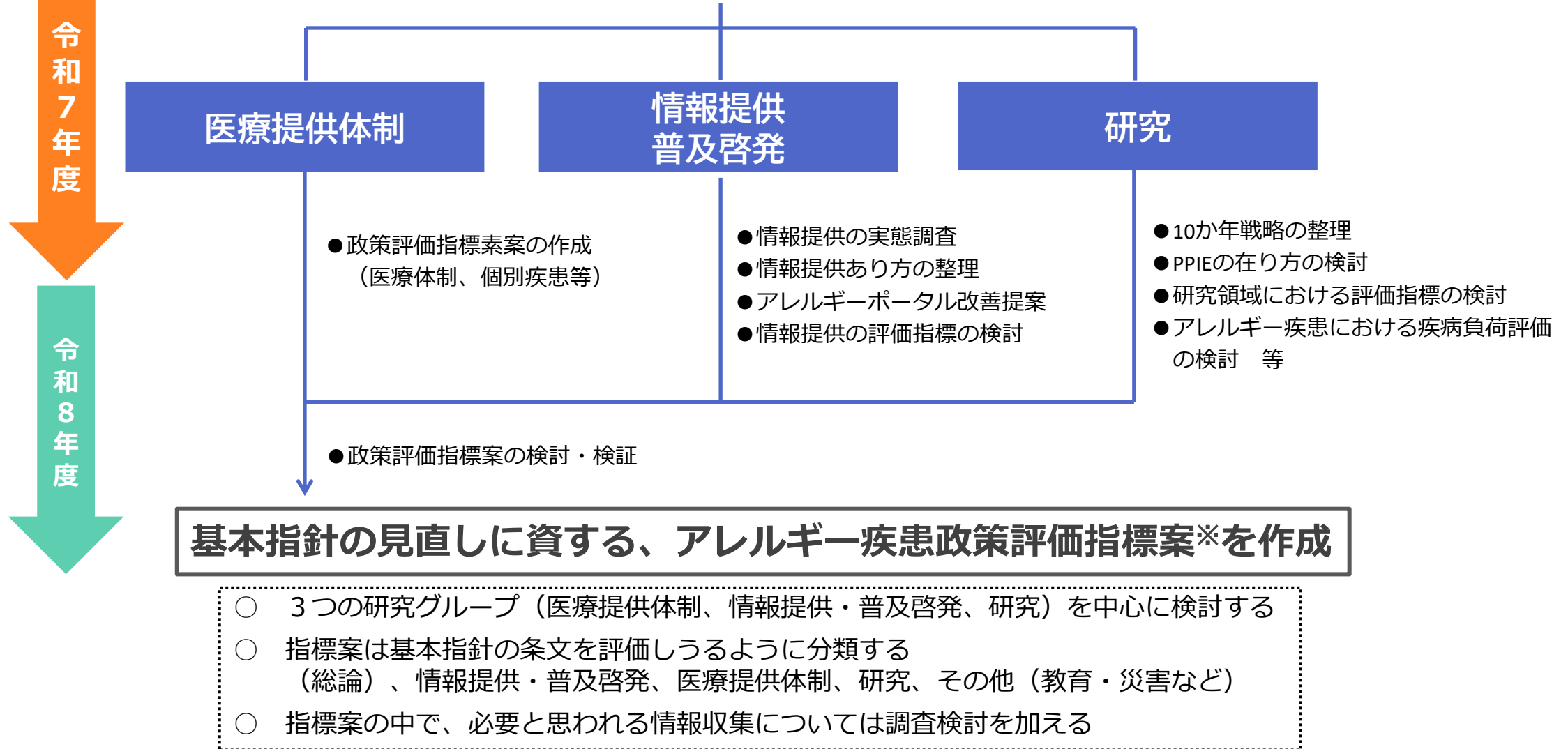
医療計画を作成する際に参考となるロジックモデルの枠組みを活用して、基本指針の条文を体系的に整理したものと作成した評価指標案を合わせる。

○ 評価指標案については、以下の観点で研究班で検討する。

- ・指標の頑強性、屈強性
- ・再現性のある指標か
- ・信頼できるデータソースか
- ・現場の負担が軽減できているか
- ・指標設定ができる/できない領域は明確か
- ・SPO指標※のバランス

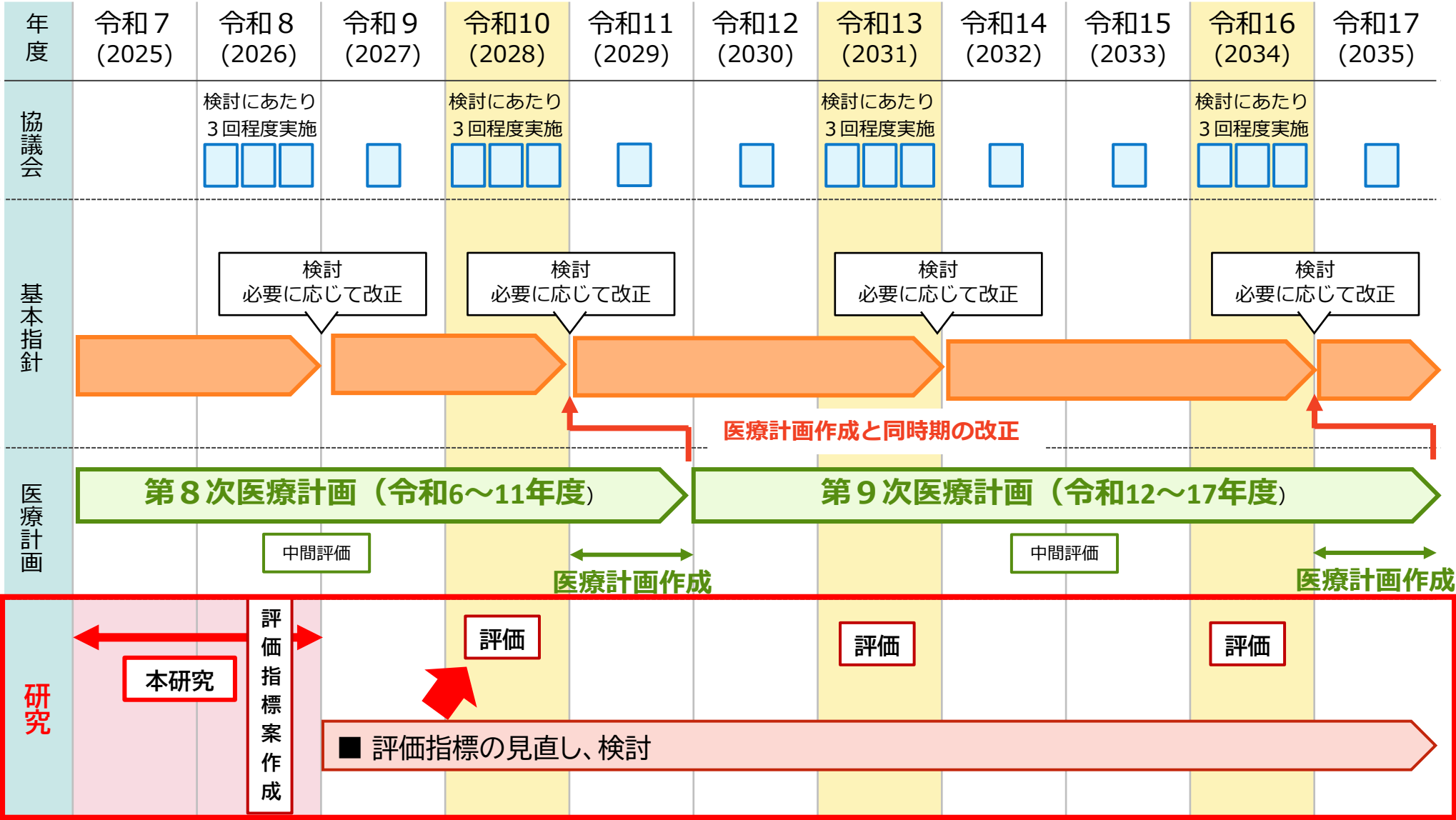
アレルギー疾患対策に関する行政施策の評価に資する研究

厚生労働行政推進調査事業(免疫アレルギー疾患政策研究):令和7-8年度



※今後の基本指針改定作業にあたり、基本指針に関連する情報提供や医療提供体制などを定量的・定性的に評価できる指標・目標

基本指針の検討スケジュールと本研究の位置づけ



アレルギー疾患政策評価指標素案例

疾病情報・疫学(死亡者数・有病率)

#	分類	指標名	関連する基本指針	調査名等 (データソース)	調査周期	集計定義等
1	情報提供 疫学	人口動態統計によるアナフィラキシーによる死亡者数	前文 2-(1) 4-(2)イ	人口動態統計	1年	死亡数、性・死因(死因基本分類)別 (T78.0、T78.2、T80.5、T88.6、 X23)
2	情報提供 疫学	人口動態統計による気管支ぜん息による死亡者数	前文 2-(1) 4-(2)イ	人口動態統計	1年	死亡数、性・死因(死因基本分類)別(J45、 J46)
3	情報提供 疫学	国民生活基礎調査による喘息の有病率	2-(1) 4-(2)ア	国民生活基礎調査 (健康)	3年	通院者数, 都道府県－21大都市(再掲)・ 性・最も気になる傷病別
4	情報提供 疫学	国民生活基礎調査によるアトピー性皮膚炎の有病率	2-(1) 4-(2)ア	国民生活基礎調査 (健康)	3年	通院者数, 都道府県－21大都市(再掲)・ 性・最も気になる傷病別
5	情報提供 疫学	国民生活基礎調査によるアレルギー性鼻炎の有病率	2-(1) 4-(2)ア	国民生活基礎調査 (健康)	3年	通院者数, 都道府県－21大都市(再掲)・ 性・最も気になる傷病別
6	情報提供 疫学	都道府県拠点病院調査におけるアレルギー疾患の有病率	2-(1) 4-(2)ア	厚生労働科学研究	3年	都道府県拠点病院の職員とその家族を対 象にしたアンケート調査

アレルギー疾患政策評価指標素案例

診療実態・医療提供体制(NDB)

#	分類	指標名	関連する基本指針	調査名等(データソース)	調査周期	集計定義等
1	情報提供 疫学	患者調査による気管支ぜん息の外来受療率 (1日あたりの推定外来患者数)	2-(1) 4-(2)ア	患者調査	3年	推計外来患者数, 性・年齢階級×傷病小分類別(千人)
2	情報提供 疫学	患者調査によるアトピー性皮膚炎の外来受療率 (1日あたりの推定外来患者数)	2-(1) 4-(2)ア	患者調査	3年	推計外来患者数, 性・年齢階級×傷病小分類別(千人)
3	情報提供 疫学	患者調査によるアレルギー性鼻炎の外来受療率 (1日あたりの推定外来患者数)	2-(1) 4-(2)ア	患者調査	3年	推計外来患者数, 性・年齢階級×傷病小分類別(千人)
4	医療提供	スギ舌下免疫療法実施患者数(新規)	1-(1)ア	NDB	3年	シダキュア2000JAUが処方されている患者 (都道府県別)
5	医療提供	スギ舌下免疫療法実施患者数(継続)	1-(1)ア	NDB	3年	シダキュア5000JAUが処方されている患者 (都道府県別)
6	医療提供	ダニ舌下免疫療法実施患者数(新規)	1-(1)ア	NDB	3年	ミティキュア3300JAUまたはアシテア100IRが処方 されている患者(都道府県別)
7	医療提供	ダニ舌下免疫療法実施患者数(継続)	1-(1)ア	NDB	3年	ミティキュア10000JAUまたはアシテア300IRが処 方されている患者(都道府県別)
8	医療提供	エピペンの処方を受けている患者数	前文 5-(1)カ	NDB	3年	エピペン0.15mgまたはエピペン0.3mgが処方され ている患者(都道府県別)
9	医療提供	生物学的製剤を使用しているアレルギー疾患患者数	1-(1)イ 4-(1)	NDB	3年	アレルギー疾患に治療適応がある各生物学的製剤が 処方されている患者数(都道府県別)

アレルギー疾患政策評価指標素案例

医療提供体制(個別疾患)

#	分類	指標名	関連する基本指針	調査名等 (データソース)	調査周期	集計定義等
1	医療提供	即時型食物アレルギーによる健康被害に関する全国実態調査の最終実施年	2-(2)ク	「食物アレルギーに関連する食品表示に関する調査研究事業」	3年	食物アレルギーに関連する食品表示に関する調査研究事業として、即時型食物アレルギーによる健康被害に関する全国実態調査が行われた最終年
2	医療提供	即時型食物アレルギー搬送患者のうち、アドレナリンが投与された患者の割合	2-(2)ク	「食物アレルギーに関連する食品表示に関する調査研究事業」	3年	最終年報告書に記載のある「食物を摂取後60分以内に何らかの反応を認め、医療機関を受診した患者」として解析対象となった全症例のうち、アドレナリンが投与された患者の割合
3	医療提供	即時型食物アレルギー搬送患者のうち、ショック症状を認めた患者の割合	2-(2)ク	「食物アレルギーに関連する食品表示に関する調査研究事業」	3年	最終年報告書に記載のある「食物を摂取後60分以内に何らかの反応を認め、医療機関を受診した患者」として解析対象となった患者のうち、ショック症状を認めた患者の割合
4	医療提供	即時型食物アレルギーによる原因食物上位10品目	2-(2)ク	「食物アレルギーに関連する食品表示に関する調査研究事業」	3年	最終年報告書に記載のある即時型食物アレルギー原因食物(類別)の上位10品目
5	医療提供	ショック症状を引き起こした原因食品上位10品目	2-(2)ク	「食物アレルギーに関連する食品表示に関する調査研究事業」	3年	最終年報告書に記載のあるショック症状を呈した原因食物の上位10品目

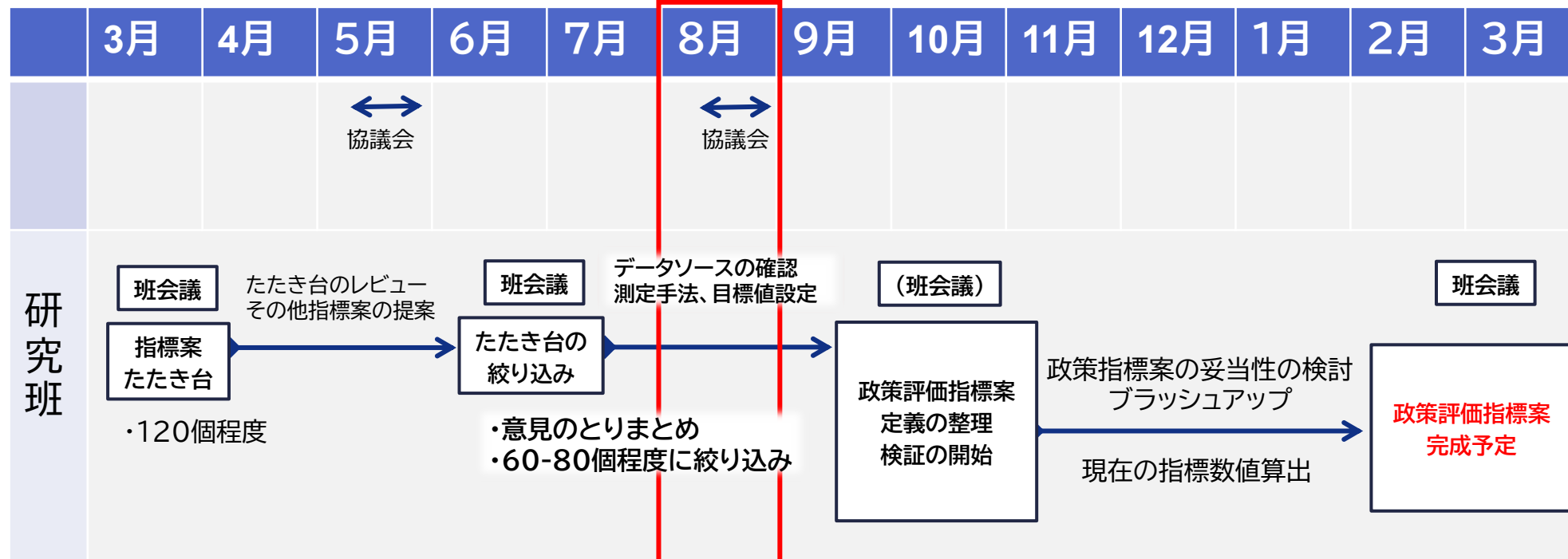
アレルギー疾患政策評価指標素案例

医療提供体制(学会情報等)、自治体の取組

#	分類	指標名	関連する基本指針	調査名等(データソース)	調査周期	集計定義等
1	医療提供	食物経口負荷試験対応可能施設数	3-(2)エ	食物アレルギー研究会情報	1年	食物アレルギー研究会HPに記載されている食物系後負荷試験対応可能な施設数(都道府県毎)
2	医療提供	成人食物アレルギー診療対応可能な施設数	3-(2)エ	食物アレルギー研究会情報	1年	食物アレルギー研究会HPに記載されている食物系後負荷試験対応可能な施設数(都道府県毎)
3	医療提供	各都道府県の日本アレルギー学会アレルギー専門医数	3-(2)ウ	学会情報	1年	学会より提供された、都道府県毎のアレルギー学会アレルギー専門医の数
4	医療提供	都道府県別のPAE、CAI数	3-(2)ウ 5-(1)ウ	学会情報	1年	学会より情報提供、都道府県毎の人数
5	情報提供 医療提供	都道府県アレルギー疾患対策医療連絡会議の実施率	5-(2)イ	都道府県アンケート調査	1年	都道府県アレルギー疾患対策医療連絡会議を実施している都道府県の数/47
6	情報提供	都道府県が実施する医療者向け講習会の開催率	3-(2)ア 5-(1)ア 5-(2)イ	都道府県アンケート調査	1年	「医療者にむけた講習会を開催した」と回答した都道府県の数/47
7	情報提供	都道府県が実施する学校教職員向け研修会の開催率	3-(2)ア 5-(1)ア 5-(2)イ	都道府県アンケート調査	1年	「学校教員にむけた講習会を開催した」と回答した都道府県の数/47
8	情報提供	都道府県が実施する保育士向け講習会の開催率	3-(2)ア 5-(1)ア	都道府県アンケート調査	1年	「保育士にむけた講習会を開催した」と回答した都道府県の数/47

今後のスケジュールについて

【令和8年度】



- ① アレルギー疾患政策評価指標素案例 ⇒ SPOの確認、指標定義や目標値設定の検討
- ② ロジックモデルを活用したアレルギー疾患対策基本指針の整理 ⇒ 指標の当てはめ、調整

今後、指標案のブラッシュアップや検証を行い、年度内の指標案完成を目指す